Our Hisotry　ピースボート35年のあゆみ

1983年
- ピースボート設立
- 第1回クルーズ出航

1984年
- 船で支援物資を届ける「UPA国際協力プロジェクト」を開始

1990年
- 日本の団体として敬後初の世界一周クルーズを開始

1992年
- リオデジャネイロで開かれた「国連地球サミット」に参加

1995年
- 阪神・淡路大震災での災害ボランティア活動
- エリトリア・オリンピックキャンペーンを実施

1998年
- 「ピースボート地雷廃絶キャンペーン（P-MAC）」を開始

1999年
- 初の南半球航路世界一周クルーズを実施
- サッカーによる国際交流・協力「ピースボールプロジェクト」を開始
- ピースボートクルーズが、UNESCO「平和文化の国際年」公式プログラムに認定
- 国際学生（IS）プログラムを開始
- グローバルイングリッシュ・トレーニング（GET）開始

2000年
- 「地球大学」プログラム開始

2002年
- 国連経済社会理事会（ECOSOC）との特別協議資格を取得

2004年
- 世界社会フォーラム（WSF）に参加

2005年
- 国連本部で開催されたGPPAC世界会議に参加
- 初の日韓共催クルーズ「PEACE&GREEN BOAT」を実現
- イラク・ファルージャ病院に車イス100台を送る
- ベトナム枯葉剤被害者支援を開始

2007年
- 「旅と平和」エッセイ大賞を開始
- ガラパゴスの森再生プロジェクトを開始
- ベネズエラ音楽教育「エル・システマ」との共同キャンペーンを開始
- グローバル9条キャンペーンを開始

2008年
- 初の南極航路世界一周クルーズを実現
- 幕張メッセにて「9条世界会議」を開催
- 「ピバクシャ地球一周の海路 証言の航海」を開始

2009年
- 国連ミレニアムキャンペーンとの共同プロジェクトを開始
- 洋上モンテッソーリプログラム「ピースボート子どもの家」を開始

2010年
- ピースボート・川崎哲がICAN副代表に就任。ピースボートは団体としてICANに正式加盟
- 洋上フリースクール「グローバルスクール」を開始

2011年
- 宮城県石巻市を中心に東日本大震災の災害ボランティア活動開始
- 福島子ども支援プロジェクトを開始

2012年
- ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）設立。のべ8万人のボランティアを被災地へ
- パシフィコ横浜にて「国際発世界会議」を開催

2013年
- 宮城県石巻市へ震災後初の客船として寄港
- パシフィコ横浜にて「ピースボート30周年記念イベント」を開催
- 世界最大規模の旅行見本市ワールドトラベルマーケット（WTM）で「平和大使賞」を受賞
- 韓国・環境財団から「グリーンプラネット・アワード」を受賞

2014年
- ブラジルW杯にあわせ「ストリートチルドレンにサッカー場を!!」キャンペーンを実施
- これまでのP-MAC（地雷廃絶キャンペーン）の活動が評価され、「カンボジア王国友好勲章」を受章

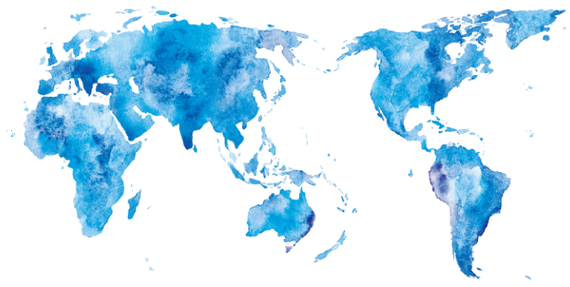
2015年
- 新造船「エコシップ」でのクルーズを発表

2016年
- 国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」公式キャンペーン船としてオーシャンドリーム号が認定
- 第100回記念世界一周クルーズを発表

2017年
- 国連本部で開かれた「国連海洋会議」に参加
- ピースボートが運営団体を務める「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」がノーベル平和賞を受賞

2018年
- 35周年記念クルーズを実施

PHOTO：PEACEBOAT、内田勾馨、片岡裕介、渋谷恭史、鈴木吉一、千賀健史、©村文彦、石田昌巳、小木曽忠、Christina Feischen、Jo Straube、Stacy Hughes、アマナイメージズ



地球を旅する ピースボート

Voyage of PEACE BOAT

Introduction

船旅を通じた 人と人とのつながりを

ピースボートは1983年に設立された国際NGO（非政府組織）です。
同年にはじめて出航をした第1回クルーズから35年の間に、のべ7万人の参加者と、
世界中200以上の港を訪問。コーディネートしたクルーズは100回を迎えました。
360度、遥かに広がる水平線を見渡しながら船は港々をめぐります。
誰もが一度は行ってみたいと思うような、世界遺産や大自然との出会い、
そしてそれぞれの港で訪問を待っていてくれる人たちがいるのが旅の魅力です。

SDGs 持続可能な開発目標

持続可能な世界へ――国連との取り組み

ピースボートは国連とともに持続可能な世界を実現するための取り組みを行っています。貧困や格差、気候変動対策を含む環境・エネルギー問題など幅広い分野の、17のゴールと169のターゲットから成り立つ持続可能な開発目標「SDGs」の達成を目指し、船旅を通して世界にさまざまなメッセージを届けています。

SDGs公式キャンペーン船

2016年8月に出航した「地球一周の船旅」から船体にSDGsのロゴマークをペイントし、SDGs公式キャンペーン船に。船内では国連関係者を含む多様なゲストを招き世界の問題解決への理解を深める活動を行っています。

平和の「創り手」を育てる地球大学

国際社会への理解を深めグローバルな視点を身につける洋上大学プログラム。寄港地での現場体験と洋上ゼミを組み合わせたカリキュラムの下で、NGOや国際機関などの各分野で活躍する人材育成を目指しています。

インターナショナル・スチューデント

世界中の若者がつながり、平和、貧困、環境問題などの地球規模の課題に取り組むために、アジア、アフリカ、中東、ヨーロッパ、ラテンアメリカなど各地から若者たちを船に招き、国境のない洋上だからできる交流と対話の場をつくっています。

PEACE&GREEN BOAT

「平和で持続可能なアジアの未来」を目指し、2005年から韓国の「環境財団」と共同でコーディネートする日韓クルーズ。日韓双方の参加者が寄港地プログラムや船内生活をともにし、交流しながらアジア各地をめぐります。

歴史認識と和解

1983年にピースボートがアジアへ船を出すきっかけになったのは歴史教科書問題。過去の戦争を見つめ、未来の平和を築くために、戦場となった現場をめぐり、市民レベルでの国際交流と対話を続けています。

国際教科書会議

UPA国際協力プロジェクト

国と国との利害を越え、人と人とのつながりを

UPAは「United Peoples Alliance」の略。直訳するなら「人びとの連合」となります。国と国の利害関係に左右されない人と人とのつながりをつくることを目的に、世界各地へ「支援物資」を届けています。現地パートナーと協議し視察を行い、必要な物資を国内で募集。現地のニーズと自立を尊重した支援を行っています。

これまでに届けた支援物資

大型客船の特性を最大限に活かし世界各地にさまざまな物資を届けてきました。文房具やスポーツ用品、オーケストラ用の楽器から、車いす（イラク）、カーブミラー（エリトリア）、救急車（キューバ）、トラック（ニカラグア）など多岐に渡ります。

ICAN核兵器廃絶国際キャンペーン

「核なき世界」の実現にむけて

被爆国・日本に本部を置く国際NGOとして、ピースボートは被爆者の方々とともに核兵器の非人道性を世界に訴え、活動をしてきました。2008年の「地球一周の船旅」からこれまでに170名以上の広島・長崎の被爆者の方々が乗船。世界各地で原爆被害の証言を行い、核兵器廃絶のメッセージをアピールしています。

ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）とは?

103カ国532団体※が参加する世界的なNGOの連合体。2007年の発足後、各国政府や赤十字と連携し、核兵器の非人道性に関するキャンペーンを展開。2017年7月の核兵器禁止条約の採択に大きく貢献し、同年ノーベル平和賞を受賞。（※2018年12月現在）

ピースボールプロジェクト

「サッカーは世界をつなぎ、世界を変える」を合い言葉に、日本で使われなくなったスポーツ用品を世界中の子どもたちに届けています。サッカーを通して国境を越えたつながりを築くこと、交流の「架け橋」になることを目的に活動を続けています。

地雷廃絶キャンペーン［P-MAC］

戦争後も残り続け、今も世界中で多くの人びとが被害にあっている地雷。カンボジアやアフガニスタンなどの地雷埋設国で地雷除去を行っている政府機関やNGOとともに、除去活動や被害者の社会復帰を支援しています。

グローバルイングリッシュトレーニング［GET］

旅の時間を使って、洋上での集中レッスンと寄港地での実践トレーニングを行う体験型洋上英会話プログラム。世界約20カ国をめぐる船旅というユニークな英会話環境を舞台に、「グローバル・イングリッシュ」を学びます。

ピースボート子どもの家

差別心も先入観もない幼い子ども時代に世界に出会い、大人も一緒に心から感動できる体験を重ねる。地球一周を通して親子で共に学ぶ体験をできる場が、洋上のモンテッソーリ保育園「ピースボート子どもの家」です。

ピースボート災害ボランティアセンター

人こそができる支援、災害ボランティア

ピースボートの災害救援は1995年の阪神・淡路大震災がきっかけ。以来ハリケーン・カトリーナ、スマトラ沖地震など国内外の被災地で支援を行っています。2011年の東日本大震災からは、一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）を設立し、のべ8万人のボランティアとともに支援活動を展開しました。

防災・減災への取り組み

世界各地で発生する自然災害。私たちは「防災」に加え、「減災」も進めていく必要があるでしょう。将来の災害に備え、ボランティア・トレーニングや防災教育の実施など、平時の取り組みを大切にしています。

Voyage of PEACE BOAT

地球を旅するピースボート

国と国との利害を超えた、人びとのつながりを作るピースボートの船旅。そのネットワークは発展し国連との共同プロジェクトを行うなど、活動の幅を広げています。ピースボートはこれからも人と人とが絆を深め、支えあい共感することができる架け橋となる船旅を続けていきます。

2017
オスロ｜ノルウェー
「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」がノーベル平和賞を受賞
同年7月に国連で採択された「核兵器禁止条約」成立に大きく貢献してきたICANがノーベル平和賞を受賞。ピースボートは国際運営団体を務めている。

2013
ロンドン｜英国
ワールドトラベルマーケット（WTM）で「平和大使賞」を受賞
世界最大規模の旅行見本市。30年にわたる国際交流の船旅の功績が評価され、日本の団体として初の受賞となった。

1995
阪神・淡路｜兵庫
阪神・淡路大震災ボランティア活動
神戸市長田区を中心に1,000名以上のボランティアとともに活動。

2008
幕張メッセ｜千葉
「9条世界会議」を開催
戦争を放棄し、軍隊を持たないという理念を世界の人びとに広めようと3日間にわたりイベントを開催し、のべ3万人が参加。

2011
石巻｜宮城
ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）設立
のべ8万人を超えるボランティアを被災地へ送り、被災者救援活動をコーディネート。

1983
39回のアジアクルーズを実施
「過去の戦争を見つめ、未来の平和をつくる」をスローガンに初出航から35年間で、39回のアジアクルーズを実施してきました。

2005
ベトナム
ベトナム枯葉剤被害者支援を開始
ベトナム戦争中に撒かれた枯葉剤によって健康被害を受けた人びとのために、募金などを通じて支援を行う。

2005
ニューヨーク｜米国
GPPAC世界会議に参加
紛争予防や平和構築のための具体的アクション、政策提言を目的に設立された世界的なNGOネットワーク「GPPAC★」。ピースボートは東北アジア地域事務局を担当している。
★GPPAC＝武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ

2017
ニューヨーク｜米国
「国連海洋会議」に参加
海の持続的利用や資源保全に関するハイレベル会合に、NGO代表として参加。

1995
エリトリア
エリトリア・オリンピックキャンペーンを実施
30年間の内戦の果てに独立を果たしたエリトリア。同国自転車競技団のアトランタ五輪への出場を支援。

2004
ムンバイ｜インド
第4回世界社会フォーラム（WSF）に参加
アジアでの初開催となったWSFの開催に、クルーズの寄港を合わせ、船旅の乗船者も参加。

2014
カンボジア
「カンボジア王国友好勲章」を受章
これまでのP-MAC（地雷廃絶キャンペーン）の活動が評価され、カンボジア王室から同章を受章。これまでに154万㎡以上の土地の地雷除去を支援している。

2007
ガラパゴス｜エクアドル
ガラパゴスの森再生プロジェクトを開始
現地の「チャールズ・ダーウィン財団」と共同でガラパゴスの固有種「スカレシア」の植林を行っている。

2007
ベネズエラ
ベネズエラ音楽教育「エル・システマ」との共同キャンペーンを開始
楽器支援とともに、オーケストラメンバーをクルーズに招き、世界各地でコンサートを行っている。

2005
ファルージャ｜イラク
イラク・ファルージャ病院に車イス100台を送る
2003年から続いたイラク戦争の被害にあった病院へ、支援物資として集めた車いすを船で輸送し届けた。

2014
ブラジル
「ストリートチルドレンにサッカー場を!!」キャンペーンを実施
ブラジルW杯にあわせ募金活動を行いサッカー場を建設。サッカーの祭典の影で、ボールさえ買うことができない子どもがいるという現状を伝えた。

2008
南極
初の南極航路世界一周クルーズを実現
クルーズを通して、かけがえのない地球の美しさにふれ、同時に自然環境の危機も直視することの意義を伝えている。

1992
リオデジャネイロ｜ブラジル
「国連地球サミット」に参加
環境と開発をテーマとする国際会議に、国連との特別協議資格を持つNGOとして参加。